

# 河川の水際にひそむ微小なカメムシをしらべる



自然・環境評価研究部 系統分類研究グループ

山田量崇

## 1. 河川の水際とは？ (図1)

水と陸の境界より陸域側は、<sup>ど</sup>土壤水分が多く、<sup>しつ</sup>湿潤な状態が保たれています。石をめくればぬれた砂地が現れる、水域からわずか数十センチの狭い範囲です。かく乱や分断による不安定な場所ですが、小さな生物たちのすみかとなっています。

## 2. 微小なムクゲカメムシ科の昆虫 (図2)

ムクゲカメムシ科の仲間は、石の下や砂の間といったすき間環境にうまく適応した昆虫です。体の表面が撥水性の微毛でおおわれるため、それらが空気の層を保持して水中でも呼吸することができます。微小(0.5~3 mm)で地味で目立たないため、採集例が少なく、これまでこの仲間に関する情報がほとんどありませんでした。

## 3. 水際は新種の宝庫！

各地で調査を行っていくと、想像以上に種の多様性が高いことがわかりました。私が研究するまで、日本には1種しか知られていませんでしたが、新種(=未記載種)を含む多くの種が見つかったのです。河川の流程ごとに生息する種が異なっていたり、水系や地域によって別種だったりしました。

誰もが見過ごしてきた河川の水際が、実は、小さなカメムシ類の新種の宝庫だったことに驚きを感じています。未調査の地域がたくさん残されていますので、これからもぞくぞくと新種が見つかるはずですよ。



図1. 河川の水際にある石の下や砂の間にムクゲカメムシ科の昆虫がひそんでいます(矢印で示した場所)。



図2. ムクゲカメムシ科の昆虫。ほとんどが未記載種(学名が決定されていない新種)。どの種もよく似ていますが、交尾器などの形態に違いがみられます。白線は約1ミリのスケール。